

中国空母“遼寧”に搭載する早期警戒機に求められる性能

漢和防務評論 20140124 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

漢和防務評論に中国空母に搭載する早期警戒ヘリの記事がありましたので紹介します。

中国が空母に載せる早期警戒機を開発しているとのニュースは聞きますが、未だ研究段階のようです。とりあえず基礎研究が必要であり、ロシアから KA-31 型早期警戒ヘリを 9 機導入し、“遼寧”号に載せ、現在試験飛行中の J-15 艦載戦闘機とタイアップした運用研究を行うものと見られます。

したがって現在“遼寧”には早期警戒システムが無く、スタンドオフミサイルには無防備状態で、大陸沿岸の陸上戦闘機の哨戒範囲でしか行動していないと思われる。

KDR モスクワ ALEXANDER BUISTLOV 特電、平可夫追加：

ロシア海軍工業界の権威筋は、KDR に対し中国海軍が合計 9 機の KA-31 型早期警戒ヘリを導入したことを認めた。同ヘリは、未だ“遼寧”艦に配備されていないが、計画では、現在行われている J-15 型艦上戦闘機の試験飛行の後期に、艦に搭載し J-15 と連合した訓練を行うようだ。したがって KA-31 ヘリのデータリンク・システムは、中国製でありロシア海軍のシステムは採用していない。なぜなら J-15 のデータリンク・システムも中国製であるからだ。中国のシステムは、総合データリンク 1 型であり、陸海空 3 軍の汎用システムである。

ロシアは当然 KA-31 と同時に E-801 型ミリ波早期警戒レーダーを中国に提供した。このレーダーは、対空、対海の 2 種類の搜索方式があり、1 名の乗員が操作する。レーダーの探知距離は 7 乃至 250 KM しかなく、“遼寧”が空母の実験艦であったとしても、満足できるものではない。新時代の空対艦ミサイルの射程はすべて 250 乃至 280KM に達している。搜索高度は 5 乃至 3500M であり、高度についても不十分な性能である。これは、艦隊の総合データリンク・システムが更に重要であることを意味する。高い高度範囲は、艦載レーダーが搜索を担当し、敵目標が低空に進入した後、KA-31 のレーダーが追跡を引き継ぐことになる。

KA-31 搭載の E-801 型搜索レーダーの戦闘機レベル目標に対する探知距離は 120 乃至 210KM で、対艦船の場合、探知距離は 250KM である。精度（距離）は 500M である。同時に追跡できる目標数は 400 個である。データの更新率は

10 秒に 1 回である。伸縮式のメカニカル・スキャン・アンテナの回転数は毎分 6 回で、レーダー展張に要する時間は 80 秒である。レーダーのウォームアップ時間は 5 分である。

現在まで、“遼寧” 艦上に KA-31 は発見されていない。海上での J-15 とのシステム訓練は、最初は陸上基地から発進して行い、その後逐次艦上に移動するものと見られる。インドの旧ソ連製中古空母“ゴルシコフ”も KA-31 を艦上早期警戒機として使用している。

以上